

ある出来事から

火をなめてはいけな

五年 中嶋 紅奈

私の家は、電化住宅だ。火事とは関係ない

と思っ、て当たり前に生活をしてきた。

ある日、祖母の家でゴロゴロしている時、

床に黒い焦げた汚れがあるのが目に入った。

今までは何も考えた事はなかった汚れたった

が、祖母にわけを聞いてみた。すると、母が

幼稚園の頃、電気ストーブにタオルを被せて、

火が出たんだ。だから、床に焦けた跡が残っ

ていらんだよ。と教えてくれた。祖母は台所

のシンクに張っていた水をおもいっきりかけ

て、大事に至らなかったそうだ。私は考えた

だけでゾッとした。そして怖く感じた。

火が広がらなくて、本当に良かった。そし

て、その時、この判断をした祖母もカッコ

よく思った。もしかしたら、そのまま火事に

なっていたかもしれないと思っ、たらだ。こ

の話を知っていてから私は、ストーブ事件と

呼んでいる。

去年の冬、家の屋上で父がくん製を楽しんでいた。くん製機は段ボールでできていて、急にくん製機ごと燃え始めた。父はびっくりして火を消そうとして、手に持っていたうちわを大きく振った。冷静に考えるとうちわを振ると、もと燃えるということは分かっているけど、人はあわてると、そこには正しい判断が出来なくなる。とがあるのだと思っただ。これは、

「くん製事件」だ！

ストーリー事件もくん製事件も、今では笑い話になっていているが、どちらも火事になりかけた跡が今でも残っている。それを目にすると、たまに思う事がある。火事は他人事ではない。日常やちょっとした不注意から、火事になるのだと分かり、自分には関係ないという考えは違うのだと今では思う。火を扱う時は十分に注意しなければならぬ。もし火災が起きたらどのような行動をとる

べきなのか。水道の位置や消火器の場所
に通報することなど万が一、火事になつた時
にあわてないように、日ごろからし、かりと
準備をしておく事が大切な事だと思う。